

にいみなんきち

新美南吉 『がちょうのたんじょうび』より

『がちょうのたんじょうび』(一)『をよみながら、

は・わ・が・を・お・へ・えのあうじを( )(のなかにかきましよう。

あるおひやくししょうやのうらにわにあひるや、がちょうや、もるもつとや、うさぎや、いたちなど) (すんでおりました。

さて、あるひのことがちょうのたんじょうびというので、みんなはがちょうのところ) (ごちそうにまねかれていきました。

これで、いたちさえよんでくれば、みんなおきやく) (そううわけですが、さて、いたちは どうしましよう。

みんなはいたちはけっしてわるものではないことをしっておりました。けれど、いたちに) (たったひとつ、よくないくせがありました。それはおおせいのみ) (では、いうことができないようなくせで ありました。なにかともうしますと、ほかでもありません、お) (きなはげしいおなら) (することであります。

しかし、いたちだけをよばないといたちはきつと) (ころにちがいありません。

こたえ

ある おひやくしゅうやの うらにわに あひるや、がちようや、もるもつとや、うさぎや、いたちなど( )が( )すんでおりました。

さて、あるひのことがちようのたんじょうびとあるので、みんなはがちようのところ( )へ( )ごちそうにまねかれていきました。

これで、いたちさえよんでくれば、みんなおきやく( )が( )そううわけですが、さて、いたちはどうしましょう。

みんなはいたちはけっしてわるものではないことをしっておりました。けれど、いたちに( )は( )たったひとつ、よくないくせがありました。それはおおせいのみ( )ま( )え( )では、いうことができないようなくせで ありました。なにかと もうしますと、ほかでもありません、お( )お( )きな はげしい おなら( )を( )すること であります。

しかし、いたちだけをよばないといたちはきつと( )お( )ころにちがいありません。